

新春対談

その一歩が、10年後を創る

板橋区をホームタウンのひとつとして活動する女子プロサッカーチーム、日テレ・東京ヴェルディベレーザ（以下、ベレーザ）。昨季は女子プロサッカーのトップリーグ「2024-25 SOMPO WEリーグ」で初優勝を果たし、今後益々の活躍が期待されています。

今回は、ベレーザの村松智子選手・野田にな選手に、競技や地域交流のこと、そして将来の理想像などを伺いました。

COLUMN

板橋区とベレーザのつながり

2015年1月29日、スポーツの振興・地域の活性化を目的とした連携協定の締結がきっかけとなり、交流が始まりました。以来、区民観戦デーや小学生向けのサッカー教室などで、活発な交流が続いている。



協定締結式の様子

2025年の振り返り

区長 初めに、「2024-25 SOMPO WEリーグ」での初優勝、誠におめでとうございます。最終節まで優勝争いが続く大接戦を制されました。今シーズンも勢いそのままに活躍されていますね。お二人にとって、2025年はどのような1年でしたか。

村松智子選手（以下、村松） チームがずっと欲しかった優勝というタイトルを獲得して、とても良い1年でした。苦労もたくさんしましたが、だからこそ優勝の喜びも大きかったです。

野田にな選手（以下、野田） 優勝後には、新しい監督や選手がチームに加わり、アジアの大会（AFC女子チャンピオンズリーグ2025/26）にも参加することになったので、チームにとって新しい挑戦の年でもありました。



©TOKYO VERDY

区長 優勝を決めた試合を現地で観戦しましたが、すごい盛り上がりでしたね。本当に感動しました。板橋区も2025年は、これまでの10年間の集大成の年であり、そしてこれから10年後の将来について考える、非常に実りの多い1年でした。ベレーザにあっても板橋区にとって、大きな転換点となる年でしたね。

サッカーとの向き合い方

区長 少しさかのぼった質問になりますが、お二人がサッカーを始めたきっかけは何だったのでしょうか。

村松 私は小学2年生のとき、5歳年の兄の影響で始めました。兄のことが大好きで、「同じことをやれば構ってもらえる」と考えたんだと思います。

野田 私は小学1年生のとき、スポーツ好きの父の影響で始めました。なでしこジャパンがワールドカップで優勝したのも、本格的に始めたきっかけです。

区長 競技を長く続けていくうえで、日頃大切にしていることはありますか。

野田 プロである以上、ピッチにいる時間はもちろん、ピッチにいない時間をどう過ごすかが自分のキャリアや人生を決めると思っています。試合に出ていない時のトレーニングやコンディション作りは特に意識しています。

区長 ゴールキーパーにとって最も大切なスキルは何でしょうか。

「1年1年を大切にしながら
積み重ねていきたいですね」
坂本健 区長



©TOKYO VERDY

村松智子・PROFILE

1994年10月23日生まれ（31歳）。東京都出身。2011年のトップチーム昇格以来ベレーザ筋で、リーグ戦などで多くの優勝を経験。2022-23シーズンよりチームのキャプテンを務める。ポジションはディフェンダー。

野田にな・PROFILE

2003年9月5日生まれ（22歳）。東京都出身。U-20女子日本代表として2022年U-20女子ワールドカップに出場。現在はチームの副キャプテンを務める。ポジションはゴールキーパー。



「女子サッカーといえばベレーザ
と言われるよう連覇をめざします」

村松智子 選手

「選手としても人間としても
成長できる年にしたいです」

野田にな 選手

新春動画
メッセージを
配信しています

YouTube区公式チャンネルで、村松智子選手・野田にな選手の新春動画メッセージを配信しています。ぜひ、ご覧ください。



▶詳しくは
こちらから



区長 1年1年を大切にしながら頑張っていきましょう。その積み重ねが、今まで育んできた土台の上で大きな成果となって現れると確信しています。さて、最後になりますが、区民のみなさんにメッセージをお願いします。

村松 いつも応援していただき、ありがとうございます。これから多くの方にベレーザを知ってもらえるよう積極的に活動していきますので、ぜひ、スタジアムで私たちの試合を見ていただけたら嬉しいです。

野田 みなさんの応援が、苦しい時も頑張れる「力の源」になっています。これからも応援してもらえるよう、みなさんの想いも背負って戦っていきたいです。

区長 これからもぜひ、区民のみなさんを勇気づけるような活躍をお祈り申し上げます。村松選手、野田選手、本日はありがとうございました。



©TOKYO VERDY